



宗教改革の人間群像

木ノ脇悦郎著 エラスムスの往復書簡から

激動の時代の文通者たち



エラスムスは16世紀最大の人文学者。『痴愚神札讃』を著して時の支配層と教会を痛烈に諷刺し、また新約聖書のギリシヤ語本文を初めて校訂するなど宗教改革運動に大きく寄与したが、自由意志論をめぐるルターと対立、後に改革陣営から絶縁された。彼はまた偉大な文通者でもあった。メランヒトン、ヘンリー8世、エック、ベダ等々8人と文通から浮かび上がる激動の時代状況を活写。

■エラスムスの本 天国から締め出されたローマ法王の話 木ノ脇悦郎訳 ◆本体2300円 ◆四六判・284頁・本体3000円

文脈化するキリスト教の軌跡

三野和恵著 イギリス人宣教師と日本植民地下の台湾基督長老教会

キャンベル・ムーディと台湾キリスト教史研究への画期的な寄与

日本植民地の台湾に派遣された宣教師ムーディと台湾人キリスト者たちとの出会いは、両者を大きく変えた。植民地支配という文脈コンテクストと格闘しながらキリスト教の教えを再解釈デコンストラクトし福音を探し求めた彼らの出会いと信仰の変遷を、残された膨大な資料から浮かび上がらせた労作。

◆A5判・528頁・本体7000円

3月24日発売



原子力発電と

日本社会の岐路

聖書と共に考える混成型共生社会と脱原発

姜尚中＋上山修平著 日本クリスチャン・アカデミー編



白熱のシンポジウム

福島事故によって明らかとなった日本社会の病弊にたいして「混成型共生社会」を提唱する姜氏。教会とキリスト者は科学的批判精神と聖書的な信仰を携えて進むべしと訴える上山氏。キリスト教精神に基づく開かれた「はなしあい」の場を創り上げてきた日本クリスチャン・アカデミーが、2014年初春に催した白熱のシンポジウムの記録。

◆四六判・188頁・本体1500円

【既刊】

原子力発電の根本問題と我々の選択 **バベルの塔をあとにして**

北澤宏＋栗林輝夫著 日本クリスチャン・アカデミー編 ◆本体1800円

●待望の続刊

イエスの譬え話 2

山口里子著 **いのちをかけて語りかけたメッセージは？**

十字架の上で果てたその生において、イエスが伝えようとしたメッセージとは何だったのか。イエスの言葉の核心を取り出す「疑いの解釈学」の最新成果。「10人の乙女たち」など解釈困難とされてきた譬え話が、全く新たな姿を見せる。 ◆A5判・本体2200円

【好評既刊】 **イエスの譬え話 1**

ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

◆A5判・本体2000円

宗教改革500年記念復刊

小社の宗教改革関連書で要望の多い品切書をまとめて復刊します。

マルティン・ルター／藤田孫太郎編訳

ルター自伝 卓上語録による

ルターの「卓上語録」から特に自伝的な文章を抜粋し、編訳者による詳細な解説を付す。ルターの福音的・改革者の信仰と、ユーマアあふれる自由な人間性を生き生きと伝える。

◆四六判・予価1400円

マルティン・ルター／ベイントン編／中村妙子訳

イースター・ブック

ルターが残した膨大な説教から、キリストの受難と復活に関するものを、宗教改革史研究の碩学が精選。またルターと同時代の画家ソリスの木版画を多数掲載。改革者の信仰の真髄。

◆B5変・予価1900円

ローランド・ベイントン著／出村彰訳

宗教改革史

名著「16世紀の宗教改革」の全訳。宗教改革の原因・展開・帰結を深い史眼で平易に叙述。信教の自由や対国家観等、近代社会形成への影響まで及ぶ。復刊への新たな解説を追加。

◆四六判・予価2600円

●2月に出た本と雑誌

内なる生

イヴリン・アンダーヒル著／金子麻里訳

20世紀前半に活躍した女性思想家が語った三つの講話。現代人の魂のケア、折りりと観想、愛と奉仕のあり方をめぐる透徹した考察。

◆小B6・本体1800円

知的障碍者と教会

驚きを与える友人たち

フエイス・パウアーズ著／片山寛・加藤英治訳

著者はダウン症の息子をもつ母。教会が開かれた共同体となるための神学的問題と具体的課題を、併せて考察する。

◆四六判・本体1800円

日本基督教団戦争責任告白から50年

『時の徴』同人編 その神学的・教会的考察と資料

教団戦争責任告白は深刻な論争と分裂を生み出したが、新たな連帯をも教会内外に作り出した。戦争責任とは何だったのか。16人の論者が自分史的な回顧を交えつつ神学的に考察する。

◆A5判・本体1300円

福音と世界

◆税込635円

3月号 特集 正統と異端

宗教改革500年 ③

寄稿者：木ノ脇悦郎、永本哲也、筒井賢治、朝香知己、渡辺英俊、徐正敏、長尾有起、柳谷雄介、片岡輝美、芦名定道、久米小百合、内田樹、辻学、月本昭男、吉松純ほか

●3月は4点の新作を準備中です。年度末は点数が集中し、小人数の編集部はハードな作業に追われています。

●『宗教改革の人間群像』は、当時の知識人ネットワークの中心にいたエラスムスの往復書簡をとおして激動の時代の人間と信仰のドラマを描き出した興味深い作品です。『文脈化するキリスト教の軌跡』は、未開拓部分の多い台湾キリスト教史の諸問題に、若い研究者が白話字資料も駆使しながら迫った労作で、京都大学に提出され高い評価を得た博士論文です。日本クリスチャン・アカデミーは「はなしあい」の精神を掲げ、毎年原発問題を考えるシンポジウムを催してきましたが、『原子力発電と日本社会の岐路』は、201

これから出る本より

私の目から見ると、日本の権力のあり方は牧人型権力なんですね。市民に対して、あなた方は囲いの中の羊のように安全に草をはんで暮らせますよ、そのかわり牧人にすべての権力を預けなさい、と要求します。多くの市民は、迷い子になることを一番恐れている。迷い子になること、これは国家の論理からすると異端者になることです。(中略)たとえ少数者となっても、自分の考え、自分の意見を出して、99匹の羊に対して1匹となってもいい、という考え方が私たちの社会にはできないんですね。……

(姜尚中・上山修平『原子力発電と日本社会の岐路』、姜尚中氏の発言より)

4年に行われたその第2回シンポの記録。脱原発の課題を通してこの社会の根本問題をあぶり出します。『イエスの譬え話2』は、1と同様、フェミニスト視点からテキストの大胆な読み直しを行い、私たちの意識にこびりついた既成の教会的な読み方を鮮やかにひっくり返します。そこから、聖書の読み方のみならず私たちの生き方全体を問い直します。

●園児に教育勅語を暗唱させたり、「安保法制、国会通つてよかったね」などと唱和させたり、民族差別を教え込んだりする幼稚園にはあ然としますが、当の学園にあらさまに便宜をはかってきた政・官の劣悪化はそれ以上に目を覆わんばかりです。

福音と世界

2017年

4

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・結婚の変容——宗教改革500年④

宗教改革期における結婚の問題——村上みか
聖書における結婚と独身

——新約テキストを中心に—— 澤村雅史
ルターへの結婚観と結婚の経験——小田部進一
男と女の共同の生——ad fontes「みなもと」に
もどって考える。 菊地純子

東方正教会の聖職者の職階と結婚について 水野 宏
キリスト者の召命と結婚の秘跡 ——第一ヴァチカン公会議とそれ以降—— 桑野 萌

書評 モルトマン『希望の倫理』……小原克博
映画『沈黙—サイレンス—』……塚本潤一

【新連載】
はじめての台湾キリスト教史……高井ヘラー由紀
【連載より】

- ◆ みことば散歩 4 ……望月麻生
- ◆ 現代神学の冒険 7 ……芦名定道
- ◆ 新約釈義 第一テモテ書 14 ……辻 学
- ◆ 聖書とわたし 15 ……町田 康
- ◆ レヴィナスの時間論 25 ……内田 樹
- ◆ 詩篇の思想と信仰 143 ……日本昭男